

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	愛知工業大学情報電子専門学校
設置者名	学校法人名古屋電気学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	高度情報処理学科 (2年制課程)	夜・通信	59単位	6単位	
	情報工学科 DTP・Webデザインコース	夜・通信	23単位	6単位	
	情報工学科 情報ネットワークコース	夜・通信	62単位	6単位	
	電子制御学科	夜・通信	43単位	6単位	
	CAD・CAM学科	夜・通信	69単位	6単位	
	高度情報処理学科 コンピュータシステムコース	夜・通信	69単位	6単位	
	高度情報処理学科 メディア情報コース	夜・通信	48単位	6単位	
	メカトロニクス学科 電子制御・ロボットコース	夜・通信	50単位	6単位	
	メカトロニクス学科 CAD・CAMコース	夜・通信	79単位	6単位	
<p>(備考)</p> <p>令和2年度、新たに高度情報処理学科(コンピュータシステムコース、メディア情報コース)およびメカトロニクス学科(電子制御・ロボットコース、CAD・CAMコース)を設置。</p> <p>これに伴い、高度情報処理学科(2年制課程)、情報工学科(DTP・Webデザインコース、情報ネットワークコース)、電子制御学科、CAD・CAM学科は、現在募集停止中であり、今年度2年生のみ在籍。</p>					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

閲覧の求めに応じられるよう事務室に設置。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛知工業大学情報電子専門学校
設置者名	学校法人名古屋電気学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.nagoyadenki.jp/structure/about/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	川北電気工業株式会社 代表取締役社長	2018. 3. 10 ~2022. 3. 9	学校法人運営 (施設担当)
非常勤	株式会社高木商店 代表取締役	2018. 3. 10 ~2022. 3. 9	学校法人運営 (事業担当)
非常勤	豊田通商株式会社 シニアエグゼクティブアドバイザー	2018. 3. 10 ~2022. 3. 9	学校法人運営 (総務担当)
非常勤	株式会社中電シーティーアイ 代表取締役社長	2018. 3. 10 ~2022. 3. 9	学校法人運営 (施設担当)
非常勤	中綜合法律事務所 弁護士	2018. 3. 10 ~2022. 3. 9	コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知工業大学情報電子専門学校
設置者名	学校法人名古屋電気学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。		
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業の方法、内容、到達目標、成績評価の方法や合格の基準その他を記載したシラバスを授業実施の前年度末に担当教員が作成し、教務部で内容を確認した上で公表を行う。 公表時期：4月		
授業計画書の公表方法	冊子「授業計画書」としてファイリングし、事務室に設置。	
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。		
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価は100点を満点として、60点以上を合格、60点未満を不合格として評語および評価内容は次のとおりとする。また、教育の特性を踏まえた適切な指導により学修の成果を評価することとする。		
評語(成績)	点数	評価内容
優(A)	80点以上	優れている
良(B)	70点以上80点未満	普通である
可(C)	60点以上70点未満	必要最低限である
不可(D)	60点未満	不合格

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 各学生の履修科目の平均成績は以下の式を用いて平均評点として算出する。</p> $\text{平均評点} = \frac{\left(\text{履修した科目の各単位数} \times \text{評点}^{※1} \right) \text{の合計}}{\text{履修した科目の全単位数} - \text{不可の選択科目の単位数}}$ <p>各学生の平均評点がクラスの中でどの位置にあるかがわかるようにグラフ化し、平均評点が記載された成績通知書とともに、各家庭に送付する。</p> <p>※1：成績評価を「優」を5点、「良」を3点、「可」を1点、「不可」を0点として数値化したもの。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生に配布する学生便覧に記載すると共に、「成績評価の指標」としてファイリングし、事務室に設置。
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針は、教育理念として「社会に役立つ」を指標とし、本校の目的でもある「人材育成像」を目指すことにより、学生が身に付けるべき以下の4項目を定め卒業単位の修得をもって生涯学習の教育成果に到達したとみなし、卒業証書(専門士)を授与している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分野ごとの基礎知識および理解力を身につけている。 2. 課題に対して解決および技術力を修得している。 3. 人間としての倫理および社会との関わりに対して理解ができている。 4. 取得した資格に対して汎用的に取り組む姿勢および解決できる実践力を備えている。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学生に配布する学生便覧に記載すると共に、「卒業の認定方針」としてファイリングし、事務室に設置。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	愛知工業大学情報電子専門学校
設置者名	学校法人名古屋電気学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nagoyadenki.jp/document/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://www.nagoyadenki.jp/document/disclosure/
財産目録	https://www.nagoyadenki.jp/document/disclosure/
事業報告書	https://www.nagoyadenki.jp/document/disclosure/
監事による監査報告（書）	https://www.nagoyadenki.jp/document/disclosure/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	高度情報処理学科 (2年制課程) (単位制) <small>募集停止中2年生のみ在籍</small>	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	70単位	39単位	3単位	44単位		
			86単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	38人	0人	3人	2人	5人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）		
<p>（概要） 授業の方法、内容、到達目標、成績評価の方法や合格の基準その他を記載したシラバスを授業実施の前年度末に担当教員が作成し、教務部で内容を確認した上で公表を行う。</p>		
成績評価の基準・方法		
<p>（概要） 成績評価は100点を満点として、60点以上を合格、60点未満を不合格として評語および評価内容は次のとおりとする。また、教育の特性を踏まえた適切な指導により学修の成果を評価することとする。</p>		
評語（成績）	点 数	評価内容
優（A）	80点以上	優れている
良（B）	70点以上80点未満	普通である
可（C）	60点以上70点未満	必要最低限である
不可（D）	60点未満	不合格

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>各学生の履修科目の平均成績は以下の式を用いて平均評点として算出する。</p> $\text{平均評点} = \frac{\left(\text{履修した科目の各単位数} \times \text{評点}^{※1} \right) \text{の合計}}{\text{履修した科目の全単位数} - \text{不可の選択科目の単位数}}$ <p>各学生の平均評点がクラスの中でどの位置にあるかがわかるようにグラフ化し、平均評点が記載された成績通知書とともに、各家庭に送付する。</p> <p>※1：成績評価を「優」を5点、「良」を3点、「可」を1点、「不可」を0点として数値化したもの。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>授業を欠席した学生、時間内に課題が完成しなかった学生に対し、授業の空き時間や授業後に個別指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27人 (100%)	4人 (13.3%)	23人 (76.7%)	3人 (10%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>旭情報サービス(株)、NDS インフォス(株)など専門知識を生かして就職している。</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>履歴書の書き方、面接指導など担任が実施。後援会組織の企業展に参加。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>基本情報技術者(取得率 53.3%)、Oracle Bronze(取得率 85%)など</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80人	10人	12.5%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>他のスクールに通い学校以外の勉強に力を入れたい。 大学受験に向けて、自宅で試験勉強に集中したい。 学習意欲が無くなり、進路変更する。 始めは授業が楽しくて勉強に励んでいたが、徐々に内容が難しくなりついていけなく</p>		

なった。

(中退防止・中退者支援のための取組)

(中退防止)

受験前に体験入学(体験授業実施)への参加を積極的に勧誘し、志望学科内容と学生の志望のミスマッチを無くすよう努めている。

中間試験を学期途中で実施し、試験結果・授業出席状況の著しく悪い学生の家庭に授業9週目までに通知することにより、早期に家庭を交えた指導を行うよう努めている。

定期試験後の結果や新学期案内の家庭通知で、就学状況が思わしくない学生にたいして文章で状況を家庭に通知し、学業継続へのアドバイスをするよう努めている。

(中退者支援)

進路変更で就職に変更する学生は次の就職先を決めてから退学することがほとんどであるが、決定せずに退学する一部の学生が希望した場合、本校への求人情報を開示し就職先選択の支援をしている。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	情報工学科 DTP・Webデザインコース (単位制) 募集停止中2年生のみ在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	69単位	20単位	1単位	52単位		
			73単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
情報工学科 25名の内数	8人	0人	1人	3人	4人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)															
(概要) 授業の方法、内容、到達目標、成績評価の方法や合格の基準その他を記載したシラバスを授業実施の前年度末に担当教員が作成し、教務部で内容を確認した上で公表を行う。															
成績評価の基準・方法															
(概要) 成績評価は100点を満点として、60点以上を合格、60点未満を不合格として評語および評価内容は次のとおりとする。また、教育の特性を踏まえた適切な指導により学修の成果を評価することとする。															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評語 (成績)</th> <th>点 数</th> <th>評価内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優 (A)</td> <td>80点以上</td> <td>優れている</td> </tr> <tr> <td>良 (B)</td> <td>70点以上 80点未満</td> <td>普通である</td> </tr> <tr> <td>可 (C)</td> <td>60点以上 70点未満</td> <td>必要最低限である</td> </tr> <tr> <td>不可 (D)</td> <td>60点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table>	評語 (成績)	点 数	評価内容	優 (A)	80点以上	優れている	良 (B)	70点以上 80点未満	普通である	可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である	不可 (D)	60点未満	不合格
評語 (成績)	点 数	評価内容													
優 (A)	80点以上	優れている													
良 (B)	70点以上 80点未満	普通である													
可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である													
不可 (D)	60点未満	不合格													
卒業・進級の認定基準															
(概要) 各学生の履修科目の平均成績は以下の式を用いて平均評点として算出する。															
$\text{平均評点} = \frac{\left(\text{履修した科目の各単位数} \times \text{評点}^{※1} \right) \text{の合計}}{\text{履修した科目の全単位数} - \text{不可の選択科目の単位数}}$															
各学生の平均評点がクラスの中でどの位置にあるかがわかるようにグラフ化し、平均評点が記載された成績通知書とともに、各家庭に送付する。															
※1: 成績評価を「優」を5点、「良」を3点、「可」を1点、「不可」を0点として数値化したもの。															
学修支援等															

<p>(概要)</p> <p>授業を欠席した学生、時間内に課題が未完成の学生に対し、授業の空き時間や授業後に個別指導を行っている。また、向学心の高い学生に対しても授業後に実習室を開放し、作品制作に取り組めるよう個別指導を行っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13人 (100%)	3人 (23.1%)	7人 (53.8%)	3人 (23.1%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>(株)エヌティーピー、NTTデータカスタマサービステクノロジー(株)など専門知識を生かして就職している。</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>履歴書の書き方、面接指導など担任が実施。後援会組織の企業展に参加。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>Web デザイナー検定ベーシック（取得率：100%）、マルチメディア検定ベーシック（取得率：100%）など。また、Web デザイナー検定エキスパートで1名が文部科学大臣賞を受賞。</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	4.55%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>就職に進路変更したため。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>(中退防止)</p> <p>受験前に体験入学（体験授業実施）への参加を積極的に勧誘し、志望学科内容と学生の志望のミスマッチを無くすよう努めている。</p> <p>中間試験を学期途中で実施し、試験結果・授業出席状況の著しく悪い学生の家庭に授業9週目までに通知することにより、早期に家庭を交えた指導を行うよう努めている。</p> <p>定期試験後の結果や新学期案内の家庭通知で、就学状況が思わしくない学生にたいして文章で状況を家庭に通知し、学業継続へのアドバイスをするよう努めている。</p> <p>(中退者支援)</p> <p>進路変更で就職に変更する学生は次の就職先を決めてから退学することがほとんどであるが、決定せずに退学する一部の学生が希望した場合、本校への求人情報を開示し就職先選択の支援をしている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	情報工学科 情報ネットワークコース (単位制) 募集停止中2年生のみ在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	70単位	36単位	2単位	38単位		
			76単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
情報工学科 25名の内数	33人	0人	0人	5人	5人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)															
(概要) 授業の方法、内容、到達目標、成績評価の方法や合格の基準その他を記載したシラバスを授業実施の前年度末に担当教員が作成し、教務部で内容を確認した上で公表を行う。															
成績評価の基準・方法															
(概要) 成績評価は100点を満点として、60点以上を合格、60点未満を不合格として評語および評価内容は次のとおりとする。また、教育の特性を踏まえた適切な指導により学修の成果を評価することとする。															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評語 (成績)</th> <th>点 数</th> <th>評価内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優 (A)</td> <td>80点以上</td> <td>優れている</td> </tr> <tr> <td>良 (B)</td> <td>70点以上 80点未満</td> <td>普通である</td> </tr> <tr> <td>可 (C)</td> <td>60点以上 70点未満</td> <td>必要最低限である</td> </tr> <tr> <td>不可 (D)</td> <td>60点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table>	評語 (成績)	点 数	評価内容	優 (A)	80点以上	優れている	良 (B)	70点以上 80点未満	普通である	可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である	不可 (D)	60点未満	不合格
評語 (成績)	点 数	評価内容													
優 (A)	80点以上	優れている													
良 (B)	70点以上 80点未満	普通である													
可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である													
不可 (D)	60点未満	不合格													
卒業・進級の認定基準															
(概要) 各学生の履修科目の平均成績は以下の式を用いて平均評点として算出する。															
$\text{平均評点} = \frac{\left(\text{履修した科目の各単位数} \times \text{評点}^{※1} \right) \text{の合計}}{\text{履修した科目の全単位数} - \text{不可の選択科目の単位数}}$															
各学生の平均評点がクラスの中でどの位置にあるかがわかるようにグラフ化し、平均評点が記載された成績通知書とともに、各家庭に送付する。															
※1: 成績評価を「優」を5点、「良」を3点、「可」を1点、「不可」を0点として数値化したもの。															
学修支援等															

(概要)
 授業で不明な点がある場合は担当教員が対応する。担当教員が不在の場合は担任及び副担任が対応する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21人 (100%)	6人 (28.6%)	13人 (61.9%)	2人 (9.5%)
(主な就職、業界等) スマートスケープ(株)、ディーピーティ(株)、日通システム(株)など専門知識を生かして就職している。			
(就職指導内容) 履歴書の書き方、面接指導など担任及び副担任が実施。後援会組織の企業展に参加。			
(主な学修成果(資格・検定等)) ITパスポート試験(取得率76.2%)、基本情報技術者試験(取得率28.6%)など			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59人	5人	8.47%
(中途退学の主な理由) 持病のため通学できなくなったため。専攻課程とは別の分野を目指すため。 学修意欲が無くなったため。休学中に他にやりたいことができたため。		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
(中退防止) 受験前に体験入学(体験授業実施)への参加を積極的に勧誘し、志望学科内容と学生の志望のミスマッチを無くすよう努めている。 中間試験を学期途中で実施し、試験結果・授業出席状況の著しく悪い学生の家庭に授業9週目までに通知することにより、早期に家庭を交えた指導を行うよう努めている。		
定期試験後の結果や新学期案内の家庭通知で、就学状況が思わしくない学生にたいして文章で状況を家庭に通知し、学業継続へのアドバイスをするよう努めている。		
(中退者支援) 進路変更で就職に変更する学生は次の就職先を決めてから退学することがほとんどであるが、決定せずに退学する一部の学生が希望した場合、本校への求人情報を開示し就職先選択の支援をしている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	電子制御学科 (単位制) 募集停止中2年生のみ在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	67単位	39 単位		23 単位	10 単位	
			72単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	21人	0人	1人	4人	5人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																	
(概要) 授業の方法、内容、到達目標、成績評価の方法や合格の基準その他を記載したシラバスを授業実施の前年度末に担当教員が作成し、教務部で内容を確認した上で公表を行う。																	
成績評価の基準・方法																	
(概要) 成績評価は100点を満点として、60点以上を合格、60点未満を不合格として評語および評価内容は次のとおりとする。また、教育の特性を踏まえた適切な指導により学修の成果を評価することとする。																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評語 (成績)</th> <th>点 数</th> <th>評価内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優 (A)</td> <td>80点以上</td> <td>優れている</td> </tr> <tr> <td>良 (B)</td> <td>70点以上 80点未満</td> <td>普通である</td> </tr> <tr> <td>可 (C)</td> <td>60点以上 70点未満</td> <td>必要最低限である</td> </tr> <tr> <td>不可 (D)</td> <td>60点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table>	評語 (成績)	点 数	評価内容	優 (A)	80点以上	優れている	良 (B)	70点以上 80点未満	普通である	可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である	不可 (D)	60点未満	不合格	
評語 (成績)	点 数	評価内容															
優 (A)	80点以上	優れている															
良 (B)	70点以上 80点未満	普通である															
可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である															
不可 (D)	60点未満	不合格															
卒業・進級の認定基準																	
(概要) 各学生の履修科目の平均成績は以下の式を用いて平均評点として算出する。																	
$\text{平均評点} = \frac{\left(\text{履修した科目の各単位数} \times \text{評点}^{\ast 1} \right) \text{の合計}}{\text{履修した科目の全単位数} - \text{不可の選択科目の単位数}}$																	
各学生の平均評点がクラスの中でどの位置にあるかがわかるようにグラフ化し、平均評点が記載された成績通知書とともに、各家庭に送付する。																	
※1：成績評価を「優」を5点、「良」を3点、「可」を1点、「不可」を0点として数値化したもの。																	
学修支援等																	
(概要) 授業を欠席した学生、時間内に課題が完成しなかった学生に対し、授業の空き時間や授業後に個別指導を行っている。																	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 (100%)	0人 (0%)	7人 (87.5%)	1人 (12.5%)
（主な就職、業界等） アイシン・エイ・ダブリュ(株)、(株)イノアック・コーポレーションなど、専門知識を活かして就職している。			
（就職指導内容） 履歴書の書き方、面接指導など担任が実施。講演会組織の企業展に参加。			
（主な学修成果（資格・検定等）） デジタル技術検定3級（取得率38%）、ITパスポート（取得率33%）など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33人	3人	9.09%
（中途退学の主な理由） 就職のため 勉強についていけなく、自分の能力に限界を感じたため		
（中退防止・中退者支援のための取組） （中退防止） 受験前に体験入学（体験授業実施）への参加を積極的に勧誘し、志望学科内容と学生の志望のミスマッチを無くすよう努めている。 中間試験を学期途中で実施し、試験結果・授業出席状況の著しく悪い学生の家庭に授業9週目までに通知することにより、早期に家庭を交えた指導を行うよう努めている。 定期試験後の結果や新学期案内の家庭通知で、就学状況が思わしくない学生にたいして文章で状況を家庭に通知し、学業継続へのアドバイスをするよう努めている。 （中退者支援） 進路変更で就職に変更する学生は次の就職先を決めてから退学することがほとんどであるが、決定せずに退学する一部の学生が希望した場合、本校への求人情報を開示し就職先選択の支援をしている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	CAD・CAM学科 (単位制) 募集停止中2年生のみ在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	71単位	38 単位	30 単位	5 単位		
			73単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30人	28人	0人	2人	5人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)															
(概要) 授業の方法、内容、到達目標、成績評価の方法や合格の基準その他を記載したシラバスを授業実施の前年度末に担当教員が作成し、教務部で内容を確認した上で公表を行う。															
成績評価の基準・方法															
(概要) 成績評価は100点を満点として、60点以上を合格、60点未満を不合格として評語および評価内容は次のとおりとする。また、教育の特性を踏まえた適切な指導により学修の成果を評価することとする。															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評語 (成績)</th> <th>点 数</th> <th>評価内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優 (A)</td> <td>80点以上</td> <td>優れている</td> </tr> <tr> <td>良 (B)</td> <td>70点以上 80点未満</td> <td>普通である</td> </tr> <tr> <td>可 (C)</td> <td>60点以上 70点未満</td> <td>必要最低限である</td> </tr> <tr> <td>不可 (D)</td> <td>60点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table>	評語 (成績)	点 数	評価内容	優 (A)	80点以上	優れている	良 (B)	70点以上 80点未満	普通である	可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である	不可 (D)	60点未満	不合格
評語 (成績)	点 数	評価内容													
優 (A)	80点以上	優れている													
良 (B)	70点以上 80点未満	普通である													
可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である													
不可 (D)	60点未満	不合格													
卒業・進級の認定基準															
(概要) 各学生の履修科目の平均成績は以下の式を用いて平均評点として算出する。															
$\text{平均評点} = \frac{\left(\text{履修した科目の各単位数} \times \text{評点}^{\ast 1} \right) \text{の合計}}{\text{履修した科目の全単位数} - \text{不可の選択科目の単位数}}$															
各学生の平均評点がクラスの中でどの位置にあるかがわかるようにグラフ化し、平均評点が記載された成績通知書とともに、各家庭に送付する。															
※1：成績評価を「優」を5点、「良」を3点、「可」を1点、「不可」を0点として数値化したもの。															
学修支援等															
(概要) 授業時間内に未提出課題のある学生は、授業後個別に対応、また授業欠席学生に対しても個別指導を行っている。															

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26人 (100%)	3人 (11.5%)	23人 (88.5%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） トヨタ自動車(株)、大豊精機(株)、スズキ(株)など専門知識を生かして就職している。</p>			
<p>（就職指導内容） 履歴書の書き方、面接指導など担任が実施。後援会組織の企業展に参加。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） トレース技能検定試験 2 級(取得率 92.3%)、2 次元 CAD 利用技術者試験 1 級(取得率 65.2%)、3 次元 CAD 利用技術者試験 1 級(取得率 37.5%)など</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59人	3人	5.08%
<p>（中途退学の主な理由） 他にやりたいことが見つかったため。 家業を継ぐ為。学校の勉強についていけないから。</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） （中退防止） 受験前に体験入学（体験授業実施）への参加を積極的に勧誘し、志望学科内容と学生の志望のミスマッチを無くすよう努めている。 中間試験を学期途中で実施し、試験結果・授業出席状況の著しく悪い学生の家庭に授業 9 週目までに通知することにより、早期に家庭を交えた指導を行うよう努めている。 定期試験後の結果や新学期案内の家庭通知で、就学状況が思わしくない学生にたいして文章で状況を家庭に通知し、学業継続へのアドバイスをするよう努めている。 （中退者支援） 進路変更で就職に変更する学生は次の就職先を決めてから退学することがほとんどであるが、決定せずに退学する一部の学生が希望した場合、本校への求人情報を開示し就職先選択の支援をしている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	高度情報処理学科 コンピュータシステムコース (単位制)	申請中				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	80単位	46単位		36単位		
			82単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
高度情報処理学科 50名の内数	40人	0人	3人	5人	8人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)															
(概要) 授業の方法、内容、到達目標、成績評価の方法や合格の基準その他を記載したシラバスを授業実施の前年度末に担当教員が作成し、教務部で内容を確認した上で公表を行う。															
成績評価の基準・方法															
(概要) 成績評価は100点を満点として、60点以上を合格、60点未満を不合格として評語および評価内容は次のとおりとする。また、教育の特性を踏まえた適切な指導により学修の成果を評価することとする。															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評語 (成績)</th> <th>点 数</th> <th>評価内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優 (A)</td> <td>80点以上</td> <td>優れている</td> </tr> <tr> <td>良 (B)</td> <td>70点以上 80点未満</td> <td>普通である</td> </tr> <tr> <td>可 (C)</td> <td>60点以上 70点未満</td> <td>必要最低限である</td> </tr> <tr> <td>不可 (D)</td> <td>60点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table>	評語 (成績)	点 数	評価内容	優 (A)	80点以上	優れている	良 (B)	70点以上 80点未満	普通である	可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である	不可 (D)	60点未満	不合格
評語 (成績)	点 数	評価内容													
優 (A)	80点以上	優れている													
良 (B)	70点以上 80点未満	普通である													
可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である													
不可 (D)	60点未満	不合格													
卒業・進級の認定基準															
(概要) 各学生の履修科目の平均成績は以下の式を用いて平均評点として算出する。															
$\text{平均評点} = \frac{\left(\text{履修した科目の各単位数} \times \text{評点}^{\ast 1} \right) \text{の合計}}{\text{履修した科目の全単位数} - \text{不可の選択科目の単位数}}$															
各学生の平均評点がクラスの中でどの位置にあるかがわかるようにグラフ化し、平均評点が記載された成績通知書とともに、各家庭に送付する。															
※1: 成績評価を「優」を5点、「良」を3点、「可」を1点、「不可」を0点として数値化したもの。															
学修支援等															
(概要) 授業を欠席した学生、時間内に課題が完成しなかった学生に対し、授業の空き時間や授業後に個別指導を行っている。															

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
(中退防止)		
(中退者支援)		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	高度情報処理学科 メディア情報コース (単位制)	申請中				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	80単位	45単位		37単位		
			82単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
高度情報処理学科 50名の内数	30人	0人	3人	4人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)															
(概要) 授業の方法、内容、到達目標、成績評価の方法や合格の基準その他を記載したシラバスを授業実施の前年度末に担当教員が作成し、教務部で内容を確認した上で公表を行う。															
成績評価の基準・方法															
(概要) 成績評価は100点を満点として、60点以上を合格、60点未満を不合格として評語および評価内容は次のとおりとする。また、教育の特性を踏まえた適切な指導により学修の成果を評価することとする。															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評語 (成績)</th> <th>点 数</th> <th>評価内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優 (A)</td> <td>80点以上</td> <td>優れている</td> </tr> <tr> <td>良 (B)</td> <td>70点以上 80点未満</td> <td>普通である</td> </tr> <tr> <td>可 (C)</td> <td>60点以上 70点未満</td> <td>必要最低限である</td> </tr> <tr> <td>不可 (D)</td> <td>60点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table>	評語 (成績)	点 数	評価内容	優 (A)	80点以上	優れている	良 (B)	70点以上 80点未満	普通である	可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である	不可 (D)	60点未満	不合格
評語 (成績)	点 数	評価内容													
優 (A)	80点以上	優れている													
良 (B)	70点以上 80点未満	普通である													
可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である													
不可 (D)	60点未満	不合格													
卒業・進級の認定基準															
(概要) 各学生の履修科目の平均成績は以下の式を用いて平均評点として算出する。															
$\text{平均評点} = \frac{\left(\text{履修した科目の各単位数} \times \text{評点}^{\ast 1} \right) \text{の合計}}{\text{履修した科目の全単位数} - \text{不可の選択科目の単位数}}$															
各学生の平均評点がクラスの中でどの位置にあるかがわかるようにグラフ化し、平均評点が記載された成績通知書とともに、各家庭に送付する。															
※1: 成績評価を「優」を5点、「良」を3点、「可」を1点、「不可」を0点として数値化したもの。															
学修支援等															
(概要) 授業を欠席した学生、時間内に課題が未完成の学生に対し、授業の空き時間や授業後に個別指導を行っている。															

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
(中退防止)		
(中退者支援)		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	メカトロニクス学科 電子制御・ロボットコース (単位制)	申請中				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	79 単位	44 単位		27 単位	10 単位	
			81 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
メカトロニクス学科 50名の内数	24人	0人	1人	9人	10人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)															
(概要) 授業の方法、内容、到達目標、成績評価の方法や合格の基準その他を記載したシラバスを授業実施の前年度末に担当教員が作成し、教務部で内容を確認した上で公表を行う。															
成績評価の基準・方法															
(概要) 成績評価は100点を満点として、60点以上を合格、60点未満を不合格として評語および評価内容は次のとおりとする。また、教育の特性を踏まえた適切な指導により学修の成果を評価することとする。															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評語 (成績)</th> <th>点 数</th> <th>評価内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優 (A)</td> <td>80 点以上</td> <td>優れている</td> </tr> <tr> <td>良 (B)</td> <td>70 点以上 80 点未満</td> <td>普通である</td> </tr> <tr> <td>可 (C)</td> <td>60 点以上 70 点未満</td> <td>必要最低限である</td> </tr> <tr> <td>不可 (D)</td> <td>60 点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table>	評語 (成績)	点 数	評価内容	優 (A)	80 点以上	優れている	良 (B)	70 点以上 80 点未満	普通である	可 (C)	60 点以上 70 点未満	必要最低限である	不可 (D)	60 点未満	不合格
評語 (成績)	点 数	評価内容													
優 (A)	80 点以上	優れている													
良 (B)	70 点以上 80 点未満	普通である													
可 (C)	60 点以上 70 点未満	必要最低限である													
不可 (D)	60 点未満	不合格													
卒業・進級の認定基準															
(概要) 各学生の履修科目の平均成績は以下の式を用いて平均評点として算出する。															
$\text{平均評点} = \frac{\left(\text{履修した科目の各単位数} \times \text{評点}^{*1} \right) \text{の合計}}{\text{履修した科目の全単位数} - \text{不可の選択科目の単位数}}$															
各学生の平均評点がクラスの中でどの位置にあるかがわかるようにグラフ化し、平均評点が記載された成績通知書とともに、各家庭に送付する。															
*1: 成績評価を「優」を5点、「良」を3点、「可」を1点、「不可」を0点として数値化したもの。															
学修支援等															
(概要) 授業を欠席した学生、時間内に課題が完成しなかった学生に対し、授業の空き時間や授業後に個別指導を行っている。															

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
(中退防止)		
(中退者支援)		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	メカトロニクス学科 CAD・CAMコース (単位制)	申請中				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	81単位	48単位		35単位		
			83単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
メカトロニクス学科 50名の内数	31人	0人	2人	10人	12人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)															
(概要) 授業の方法、内容、到達目標、成績評価の方法や合格の基準その他を記載したシラバスを授業実施の前年度末に担当教員が作成し、教務部で内容を確認した上で公表を行う。															
成績評価の基準・方法															
(概要) 成績評価は100点を満点として、60点以上を合格、60点未満を不合格として評語および評価内容は次のとおりとする。また、教育の特性を踏まえた適切な指導により学修の成果を評価することとする。															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評語 (成績)</th> <th>点 数</th> <th>評価内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優 (A)</td> <td>80点以上</td> <td>優れている</td> </tr> <tr> <td>良 (B)</td> <td>70点以上 80点未満</td> <td>普通である</td> </tr> <tr> <td>可 (C)</td> <td>60点以上 70点未満</td> <td>必要最低限である</td> </tr> <tr> <td>不可 (D)</td> <td>60点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table>	評語 (成績)	点 数	評価内容	優 (A)	80点以上	優れている	良 (B)	70点以上 80点未満	普通である	可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である	不可 (D)	60点未満	不合格
評語 (成績)	点 数	評価内容													
優 (A)	80点以上	優れている													
良 (B)	70点以上 80点未満	普通である													
可 (C)	60点以上 70点未満	必要最低限である													
不可 (D)	60点未満	不合格													
卒業・進級の認定基準															
(概要) 各学生の履修科目の平均成績は以下の式を用いて平均評点として算出する。															
$\text{平均評点} = \frac{\left(\text{履修した科目の各単位数} \times \text{評点}^{*1} \right) \text{の合計}}{\text{履修した科目の全単位数} - \text{不可の選択科目の単位数}}$															
各学生の平均評点がクラスの中でどの位置にあるかがわかるようにグラフ化し、平均評点が記載された成績通知書とともに、各家庭に送付する。															
*1: 成績評価を「優」を5点、「良」を3点、「可」を1点、「不可」を0点として数値化したもの。															
学修支援等															
(概要) 授業時間内に未提出課題のある学生は、授業後個別に対応、また授業欠席学生に対しても個別指導を行っている。															

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
(中退防止)		
(中退者支援)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
高度情報処理工学科(2年制課程) 情報工学科 電子制御学科 CAD・CAM学科	—	800,000 円	200,000 円	その他納付金 : 教育充実費
高度情報処理工学科 メカトロニクス学科	200,000 円			
修学支援 (任意記載事項)				
奨学金として <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の卒業生の兄弟等を対象とした奨学金 ・ 特定の入試制度で入学した学生を対象とした奨学金 ・ 学業成績優秀者を対象とした奨学金 ・ 家計の経済状態が悪化した場合等に支給する奨学金 等 				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://ace.ac.jp		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 主な評価項目：教育活動、学修成果、学生支援 評価委員会の構成 定数：4名以上、選出区分：卒業生、地元関係者、地元企業関係者、高等学校関係者、保護者、その他教育に関する有識者 評価結果の活用方法：評価結果が校長に報告された後、教職員その他関係各位に周知するとともに改善策の策定を速やかに行い順次改善していく。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社クロップス・クルー	2020.4.1～2022.3.31	卒業生
豊田市役所	2020.4.1～2022.3.31	地元関係者
鬼頭工業株式会社	2020.4.1～2022.3.31	地元企業関係者
愛知工業大学名電高等学校	2020.4.1～2022.3.31	高等学校関係者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://ace.ac.jp		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		



c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://ace.ac.jp>